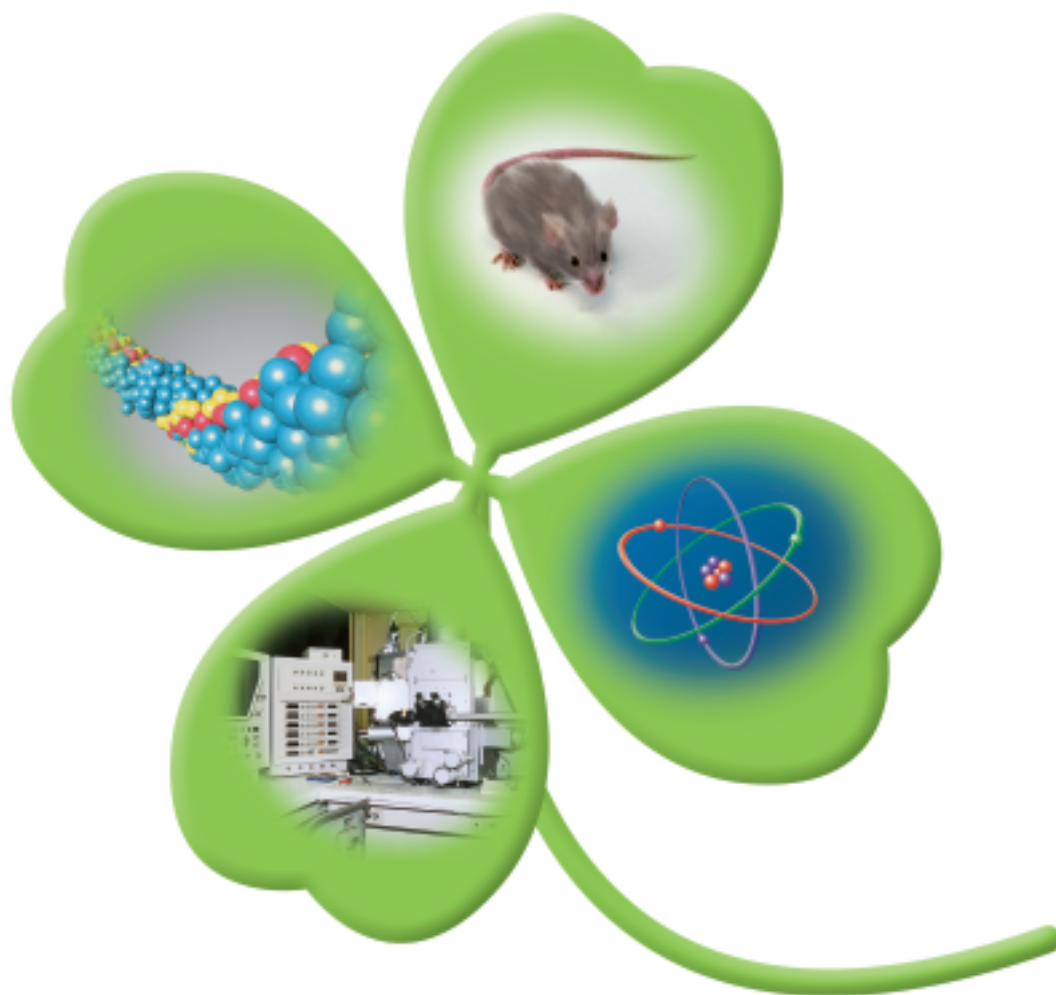


金沢大学  
学際科学実験センター年報

2007

第 5 号



Annual Report No.5  
Advanced Science Research Center  
Kanazawa University, 2007



# はじめに

学際科学実験センター長 森 厚 文

学際科学実験センターの研究分野は、遺伝子改変動物分野、ゲノム機能解析分野、トレーサー情報解析分野、機器分析分野の4分野からなります。平成15年4月に学際的、先端的研究の推進のために5センター・施設が統合再編されて発足してから早5年が過ぎ、6年目を迎えました。本冊子は平成19年度の活動実績をまとめたものです。ご高覧いただければ幸いに存じます。

平成20年7月に「教育振興基本計画」が策定され、政府として今後10年間を通じて目指すべき教育の姿と、平成20年から24年度までの5年間に具体的に取り組むべき施策を示しています。その中で大学等の施策として、たとえば（1）世界最高水準の卓越した教育研究拠点の形成：特に「世界最高水準の卓越した教育研究拠点」の重点的支援および「国公立を通じた共同利用・共同研究拠点の整備」の支援、（2）若手研究者、女性研究者等が活躍できる仕組みの導入：テニユア・トラック制の導入、多様なキャリアパスを切り拓くための人材養成等の組織的取組など、（3）大学等の国際化の推進の施策として、2020年を目途にした「留学生30万人計画」、（4）国公立大学等の連携等を通じた地域振興のための多様で特色のある取組の支援、（5）大学等の教育支援を支える基盤を強化：科学研究費補助金等の競争的資金等の拡大、国立大学法人評価の結果を活用した「国立大学法人運営交付金」の適切な配分、教育研究施設・設備の整備・高度化、時代や社会の要請にこたえる国立大学の更なる改革などが挙げられています。これらは、「大学の機能分化と役割分担」の政策を指向しています。

金沢大学では「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」を大学改革の理念として大学憲章に掲げています。平成20年4月より中村信一・新学長が就任し、従来の学部・学科制から「3学域・16学類」という新たな教育組織がスタートしました。また、中村学長は5つの柱からなるビジョンを掲げて抱負を述べられています。すなわち「我が国ベスト10大学を目指すこと」、「次世代の優秀な人材を育成すること」、「世界的な教育研究の拠点となること」、「リージョナルセンターとして機能すること」、そして「法人としての自主的・自律的な運営を行うこと」の5つの柱です。これらはお互いに相補的關係にあり、「正のスパイラル」の展開が期待されます。

このような背景のもとに、各センター（学内共同教育研究施設）はそのミッションを明確にするとともに第2期中期目標・中期計画の策定が求められています。当センターは研究センターと研究基盤センターの2つの機能を有しています。研究センターとしての研究の方向性を明確にするとともに、金沢大学の個性・特色を生かした基盤的な研究環境（ソフト、ハードの両面）を整備・充実することが必要であり、第2期中期目標・中期計画の策定について検討を開始したところです。これまでの、大学執行部及び教職員の方々のご支援に深く感謝するとともに、今後の更なるご理解とご支援をお願いいたします。



# 2007年度学際科学実験センター一年報

## 目 次

はじめに

I センターの概要 .....	1
1. 理念・目標 .....	1
2. 設立の経緯 .....	2
3. 組 織 .....	3
II センターの事業報告 .....	4
III 研究分野・領域の研究教育活動状況 .....	12
遺伝子改変動物分野 .....	12
ゲノム機能解析分野 .....	18
トレーサー情報解析分野 .....	26
機器分析分野 .....	35
革新脳科学プロジェクト研究領域 .....	37
IV 研究施設の活動状況 .....	41
実験動物研究施設 .....	41
遺伝子研究施設 .....	46
アイソトープ総合研究施設・アイソトープ理工系研究施設 .....	48
機器分析研究施設 .....	61
学際科学実験センター利用業績一覧 .....	62
付 録 .....	81
職員名簿 .....	81
各種委員会委員名簿 .....	82
諸 規 程 .....	83
設備機器一覧 .....	95

